

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅支援病棟患者の入退院時の栄養指標及び ADL の比較
演者名	金子 康彦 小嶋 紀子 今泉 良典
所属	国立長寿医療研究センター 栄養管理部

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告	2. 症例シリーズ報告	3. コホート研究	NO.
	4. 症例対照研究	5. 調査研究	6. 介入研究	7. 二次研究
8. 質的研究				
9. その他研究				

目的

当センターは、在宅登録医、登録患者制を取る在宅連携に特化した病棟（以下：在宅支援病棟）をもつ。そこでの入退院時の栄養指標と ADL を疾病別に比較し、在宅での栄養管理の必要性を検討したので報告する。

方法

対象は、2013 年 5 月～2014 年 8 月末までに在宅支援病棟に入院し、入退院時に管理栄養士が関わった患者 106 名（年齢：81.3±10.0 歳、BMI：18.9±3.3kg/m²、在院日数：20.72±14.71 日）。調査項目は、栄養指標として食事摂取量・身体計測・血液検査（WBC・Hb・Alb・CRP）・MNA-SF を ADL は Barthel Index（以下：BI）とし比較した。また、入院時の主病名で疾患を脳神経疾患（27 名）循環器疾患（17 名）悪性腫瘍（19 名）感染症（27 名）に分類し、各項目の入退院時の変化と入院時の状態を疾患別で比較した。

結果

食事摂取エネルギー量（kcal/標準体重）は、全体：入院時 17.8±9.2kcal/kg、退院時 21.3±9.0kcal/kg と循環器疾患：入院時 18.2±9.0kcal/kg、退院時 22.7±8.0kcal/kg で有意に改善した。%AMC は全体では有意な低下を示したが、循環器疾患で有意な改善を得た。血液検査値では CRP は有意な改善が得られたが、Hb・Alb は有意に低下した。それ以外の項目は、全体及び疾患別に特徴的な有意な変化は見られなかった。

考察

在院日数が 20 日程度の在宅支援病棟患者では、食事摂取量や CRP の改善は見られるが、栄養指標として目立った改善は得られなかった。また、入院時の MNA-SF：5.7±3.1 点、Alb：3.5±0.5g/dl と低いことから、在宅での積極的な栄養管理の必要性が示唆された。また、疾患分類別には異なる評価となり、多くの併存症をもつ高齢者の在宅栄養管理には、その方法を分り易く具体化する必要があると考える。